

# 歴史探訪

## クラブ



History Inquiry Club

文化財課 ☎22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### 端午の節句

5月5日は、皆さんご存じの「端午の節句」です。現在では、この日を端午の節句という人は少なくなり、国民の祝日としての「こどもの日」と呼ぶことが多くなりまりました。ちなみに、この日が祝日になったのは、今から70年前の昭和23(1948)年でした。

さて、日本では、季節の変わり目ごとに5つの節句が設けられ、その節目に五穀豊穡や無病息災、子孫繁

栄などを祈り、神様へお供え物をしたり、邪気をはらったりする行事をしていました。五節句とは、1月7日人日の節句(七草の節句)、3月3日上巳の節句(桃の節句)、5月5日端午の節句(菖蒲の節句)、7月7日七夕の節句(笹の節句)、9月9日重陽の節句(菊の節句)で、元は唐の時代の中国から伝わってきたものでした。

そんな節句行事の一つである端午の節句の歴史は古く、古代中国では、この日を悪日として災厄や病魔をはらうための行事が行われていました。こうした風習が奈良時代にわが国に伝わり、平安時代には、天皇が交えた「菖蒲酒の宴」が催され、群臣には「薬玉」、天皇には「粽」が献じられるようになりました。そして群臣たちには、この日、菖蒲がつけられた冠をかぶるといふ習わしがあつたとされています。これは、菖蒲が薬草として香りが強く、その香りにより邪気をはらうものとされてきたか



▲初風



▲鯉のぼり

らでした。私も子どもの頃にお風呂で菖蒲を頭に巻いた記憶があります。これはこの習わしに由来するものであつたのです。その後、鎌倉時代になると武家社会の間でも菖蒲が「尚武(武道・武勇を重んじること)」に通じることからこの行事は尊ばれるようになりまし。江戸時代となり、武家社会が成熟すると5月5日を男子の節句とし、のぼりや鎧兜(よろいぶと)を武者人形などが男の子のいる家々で飾られるようになりました。さらに明治時代以降には、こうした習慣が一般の家庭でも盛んに行われるようになり、絵のぼりや鯉のぼり、祝風があげられ、粽や柏餅などの贈答が行われるようになりました。

また、東三河地方から静岡県、神奈川県にかけての地域では、端午の節句のころに風揚げをして子どもの誕生を祝う「初風」という行事があります。本市内においてもこの頃

になると初節句を迎える男の子の健康やかな成長を願って大きな絵風を揚げてお祝いをする風習があり、昭和の初めごろまでは、旧泉村を中心とする石神、伊川津、江比間や野田、赤羽根、田原地区などでも盛んに行われていました。

現在、田原市無形民俗文化財に指定されている「田原風けんか風合戦・初風」は、このような風俗習慣によるものです。

今年の「田原風まつり」は、5月26日(土)「初風祈願祭・初風揚げ」、27日(日)「けんか風合戦」の日程で開催されます。皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。(天野)

#### 出典

●「初風「鯉のぼり」」松下石人著  
『三州奥郡産育風俗図絵』昭和12年  
原本発行) 国書刊行会復刻本より



●初風揚げ(撮影年・場所不明 個人蔵)  
※ネガに汚れあり